

European Summer School & 2nd Japanese-German Student Workshop 派遣報告

名古屋大学工学研究科電子情報システム専攻 松平 雄人

平成20年10月4日～16日の12日間にわたり、International Training Program による European Summer School、そして2nd Japanese-German Student Workshop への派遣に参加した。European Summer School では1週間にわたり、数多くの著名な先生方の講義を受講し、プラズマの基礎、そして最先端の技術、応用の理解を深めた。先生方の講義は概ね全て分かりやすく、学んだ知識は今後の研究生活で大いに生かすことができるだろう。Master Class の核融合プラズマに関する講義も興味深く、自分の研究するナノレベルでのプラズマ制御にも役立てられるのではないかと考えている。この School では、プラズマの知見を深めるとともに、未だ自分が知らなかった分野に触れることもでき知識の幅を広げられた。

また、School 会場の環境はすばらしく、何不自由なく生活することができ充実した日々を過ごすことができた。食事やレクリエーションは、そこに集まった世界中の学生たちと交流を深め、日本とは異なる様々な文化、そして彼らの考えを吸収できる非常に大きな国際交流の場となった。世界中の人々と知り合えたことは、この ITP 派遣において得られた大きな収穫のひとつである。もちろん帰国後も彼らと連絡をとりあっており、今後、プラズマに関する学会やそれ以外の場面で、彼らと再会できたらいいなと思っている。

なお、European Summer School においては、「Gas-Phase Diagnostics of Novel Nonequilibrium Atmospheric-Pressure Plasma with Ultrahigh Electron Density (10^{16} cm^{-3}) and Glass Surface Cleaning」という題目でポスター発表を行い、自分の研究についてディスカッションするとともに他の参加者たちの研究を学んだ。

また2nd Japanese-German Student Workshop では「Development of Novel Nonequilibrium Atmospheric Pressure Plasma with Ultrahigh Electron Density (10^{16} cm^{-3}) and Its Applications」という題目で、自分にとって初めての英語によるオーラル発表を行った。質疑応答では計測やプラズマの均一性に関する質問等を頂き、自分も他の学生の発表に対して質問を幾つかさせて頂いた。私個人的には、満足のいくプレゼンテーションはできなかったが、国際舞台での経験を積むことはできたと思う。

その後のボッフム大学の研究室見学では、多種多様な実験内容を丁寧に説明していただいた。プラズマの産業への応用実験の多さもさることながら、特にレーザーを用いた計測が多く、プラズマパラメータに関する研究に力を入れて取り組んでいることが見て取れた。実験内容や実験環境などの面において参考にすべきところは多く、今後の研究生活に生かせられるのではないかと考えている。

概して言えば、若手研究者を対象としたスクール及びワークショップは非常に有意義であった。世界中の人と知り合い、議論し合い、たくさんの知識を吸収した。この派遣をきっかけにして、プラズマ界をリードする人材になるためにも国際的視野をもち、今回得た知識、経験を生かして研究により一層励んでいきたいと思う。

今後とも国際経験をやる機会があれば是非参加したい。

最後にこの派遣を実現させてくださいました ITP 事務局、ドイツ側の関係者の方々に感謝いたします。